



『私の半世紀を振り返って！〈感謝〉』

木村 真一郎 会員

今日は、新入会員スピーチをさせていただきます。内容は私の誕生から現在までと「兵庫県信用組合」についてお話させていただきます。

先ず私の誕生ですが、昭和44年3月13日、兵庫県尼崎市の地に木村家の長男として産声をあげました。両親ともサラリーマンで、ごくごく普通の家庭です。ただ、長男誕生となり祖父母を含め親類縁者多数の方から祝福を受けたと聞いています。今思えば私の名前に当時の思いがこめられていると感じ取れます。つまり「真一郎」の由来ですが、「真一」は父「郎」は祖父の切なる希望で名づけられたと聞いています。自分自身が結婚し、わが子の名前を付ける時には、何日もかけて思案しました。両親の「名前に込めた思い」が十分に汲み取れ、両親・祖父母に感謝しています。

次に妻との出会いですが、小野支店勤務時代に知り合いました。末娘で今思えば妻のご両親には言葉では表現できないほど寂しい思いをさせたのだろうと想像できます。結婚当初から妻の実家に伺えば「お酒を飲みながら会話がはずみ（訓練の場となりました）、ゴルフに連れて行ってもらうなど（練習の場となりました）、大変居心地のよい場所となっています。妻のご両親に感謝しています。

次に、私の家族についてですが、私たち夫婦・長男（大学生）・次男（大学生）の4人家族です。現在、長男は自宅から通学、次男は大阪で下宿生活をしており、夫婦二人して毎日寂しい思いをしています。将来、就職場によっては子供二人とも家を出ていくことも考えられ、想像できないほど寂しくなるのだろう……と、覚悟しています。振り返れば、幼少期には食物（特に卵）アレルギーで、子供もしんどい思いをし、食事に苦労した思い出があります。今は、その当時から考えると「うそ」のように好き嫌いなく何でも食べることができており、子供の体質に「感謝」しています。

次に私の趣味および健康管理についてですが、20代には年に数回神鍋高原・ハチ北方面のスキー場へ出かけていましたが、現在は体力不足から数年休止中です。唯一、妻と二人休日に散歩がてらウォーキングすることが気分転換となっています。また、「ユーチューブ」を日々検索・視聴す

ることもストレス解消の一つとなっています。

次に兵庫県信用組合の職員として印象に残っていることをお話させていただきます。当組合は兵庫県内に24店舗と1出張所のネットワークを持ち、兵庫県一円を営業エリアとして活動しています。私は小野支店を着任店に現在の龍野支店を含め、全10店舗への異動を経験しました。特に印象的だったことは、平成7年1月17日（火曜日）午前5時46分に発生した、阪神・淡路大震災です。当時勤務していた「小野支店」の中で若手職員であったことから特に何ができるわけではなく、歯がゆい思いをした記憶があります。テレビのニュースを見てあまりに甚大な被害に愕然としたことを覚えています。幸いにして、支店の影響は少なく、当日から営業できたものの、当時、神戸市内店舗（特に三宮支店）への影響が甚大で、当時の先輩から、「当日は上司と連絡をとり出社を断念して、翌朝3時ごろに車で自宅を出発し、六甲山トンネルを抜けて三宮の町を見た時には、ゴジラ映画に出てくる「町の模型」のように感じるほど、道路は波を打ち、ビルは壊れ、現実の光景とは思えないほどの被害で、2つに折れた「柏井ビル」を見た時には地震エネルギーの凄まじさに恐怖を覚え、この様な被害状況の中、何とか渋滞に巻き込まれながらも三宮支店に到着したが、ライフラインが寸断され、一面ガスが漏れているような臭いがしていた。当然に営業できる状態ではなく、1週間後の1月23日から本店営業部に仮営業所を設置して営業を再開、お客様の安否が一番気がかりだったが、幸いにも担当していたお客様は元気に過ごされており安堵した。また、生活・事業・住宅等復興への思いが強く、お客様の様々なニーズに答えるため日々活動し、感謝の言葉を頂いたときには喜びで疲れも忘れるほどだった。この様な活動から3か月が経過し、ようやく4月24日に元の店舗で営業を再開、JRが完全復旧するまでの自家用車通勤等、体力と精神面の負担が大きかったことを思い出すが、お客様が無事であったことと、復興のお手伝いできたことを一番嬉しく感じる。」という言葉聞いて、先輩の偉大さ、自身への仕事に対する戒めになった記憶があります。

最後に、今思うこととして、入社して30年、「上司・部下に恵まれた」「内助の功」「取引いただいているお客様」への感謝を忘れず、今後も気を抜くことなく、全てのことに感謝し、これからの出会いを大切にしていける所存です。ご静聴ありがとうございました。

